



公益財団法人 全国老人クラブ連合会



The Senior Citizens' Club

仲間がいるって大切だ、老人クラブ。



全老連創立60周年



公益財団法人 全国老人クラブ連合会
JAPAN FEDERATION OF SENIOR CITIZEN'S CLUBS

〒100-8917 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル 5階
電話03-3581-5658
FAX03-3597-9447
<http://www.zenrouren.com/>
発行：令和4年7月

撮影協力：横浜市老人クラブ連合会
写真提供：香川県老人クラブ連合会・横浜市老人クラブ連合会



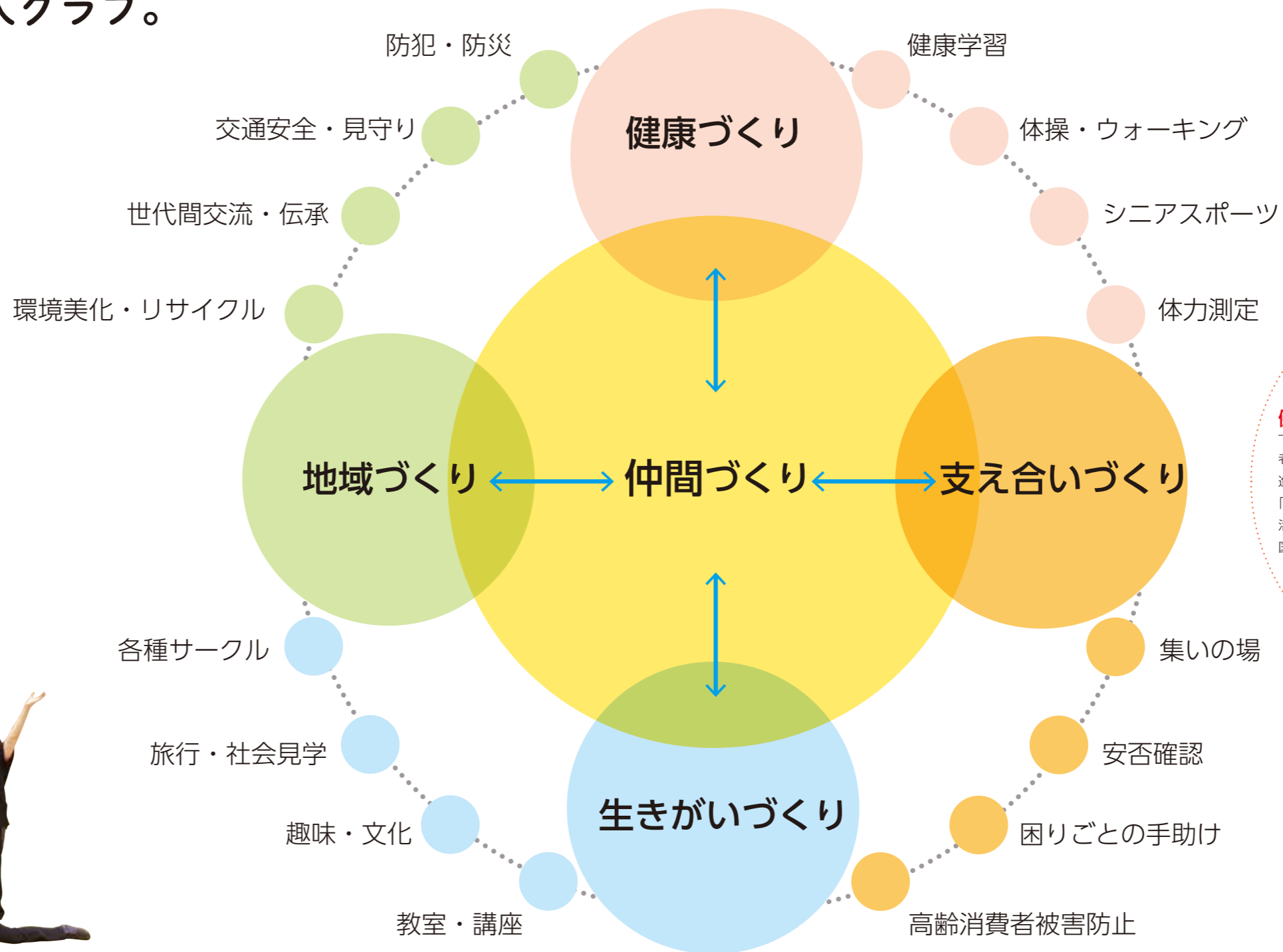


地域共生社会の実現に向けて

楽しむ、つながる、支え合う、
私たちの居場所、老人クラブ。

戦後間もなく誕生した老人クラブ。先人たちがめざしたのは「**高齢期の幸せを高齢者自身の手で創り出す**」こと。その思いは引き継がれ、大きく広がり、全国にネットワークを有する高齢者組織になりました。現在、各地の老人クラブでは、健康づくり、支え合いづくり、生きがいづくり、地域づくりを進めるために多彩な活動を展開しています。活動をとおり、地域共生社会の実現に向けて、ともに楽しみ、支え合い、喜びを分かち合う仲間がいる場所、それが老人クラブです。

活動は多彩！



健康・友愛・奉仕(全国三大運動)

老人クラブでは、「健康」(高齢期の健康保持・増進活動)、「友愛」(高齢者相互の支え合い活動)、「奉仕」(住みよい地域づくりなどのボランティア活動)の3つの活動を組織的に推進するため、全国共通運動と位置づけて取り組んでいます。





高齢期の心身機能の衰えを防ぐためには、**健康の保持・増進**に必要な知識を学び、日々の生活のなかで実践し、そして自己点検することが必要です。老人クラブでは健康づくりとして、日ごろの健康管理やフレイル（虚弱）予防、事故防止などの健康学習、体操、ウォーキング、シニアスポーツなどの実践活動、体力測定や健康診断の受診促進などの活動に取り組んでいます。一人ではできないことも、仲間がいれば続けられます。



仲間と一緒に続けられる



「健康づくり推進委員」が健康活動をサポート

高知県宿毛市老人クラブ連合会

全老連の「健康づくり中央セミナー」への参加を契機に、若手委員が「健康づくり推進委員養成講座」を企画。講座の柱は「介護予防と老人クラブ活動」「高齢者に多い事故」「音楽を通した健康づくり」「認知症の理解と対応方法」。講座を修了した25名が「健康づくり推進委員」となり、市老連やクラブの健康活動をサポートしています。



講座「音楽を通した健康づくり」のグループ学習

継続した体力測定で変化に応じた健康づくり

北海道浦臼町老人クラブ連合会

町老連では平成27年度から、道老連職員を招いて体力測定会を実施してきました。令和元年に「体力測定員養成講座」を開催し、25名の測定員が誕生。以来、毎年3月に測定会を実施しています。参加者は毎回40名前後で継続者も多くいます。今後は健康学習などにも力を入れていきます。



つぎの測定は「開眼片足立ち」

「単位クラブ」のニュースポーツを世代間で楽しむ

鳥取県境港市竹内ことぶきクラブ

クラブでは、各種ニュースポーツを実施して会員の健康づくりをはじめ、子ども、親、高齢者の三世代交流とともに楽しんでいます。ニュースポーツ大会では人気のシャッフルボードを取り入れ、会員が健康づくりに参加するきっかけにもなっています。もっとも盛んなのはグラウンド・ゴルフ。多くの会員が毎日楽しんでおり、年に数回は市老連と自治会共催で大会も開催され、毎回好成績を収めている種目のひとつです。



キュー（細長い杖）でディスクを押し出して得点盤に到達させるシャッフルボードは人気

「いこいこ健康ウォーク」など行政と協働した介護予防活動を推進

奈良県生駒市老人クラブ連合会

市老連は市と協働してボランティアの養成をし、「いきいき百歳体操」を行うサロンの普及に努めています。また、市老連独自で、健康づくり・介護予防サポーター養成に取り組み、介護予防活動をおして人とのつながりのある地域をめざしています。年3回開催している地域の史跡や名所を巡る「いこいこ健康ウォーク」には、健康づくりを目標に毎回70～80名が参加しています。



毎回、多くの会員、非会員の高齢者が参加してにぎわう「いこいこ健康ウォーク」

▲上：パタンクは年齢や性別に関係なく一緒に楽しめる人気種目。コート上のサークルから目標球に向けて金属製のボールを投げ合い、相手より近づけたほうが得点。全国各地では、会員による多くの大会や交流の機会が開かれています

▲下：各クラブで行われている体操には「いきいきクラブ体操」「いきいき百歳体操」のほか、各地にはオリジナルの体操もあり、フレイルの予防にも役立っています。写真は椅子を使った筋力アップのための体操



高齢になっても住み慣れた地域で、自分らしく暮らし続けたい。そんな願いを高齢者相互の助け合いで支える活動を老人クラブでは「友愛活動」と呼んでいます。孤立や閉じこもりを防ぐ集いの場づくり、見守りや声かけ、日常生活での困りごとの手助け、詐欺被害の防止など、地域の状況に応じてさまざまな取り組みを行っています。同世代同士だからこそわかり合える。そうした思いが活動に生かされています。



助け合える仲間がいるって心強い



スタッフも参加者とともに楽しむ「ダレデモ・カフェ」

東京都目黒区東根会

平成28年に、地域の高齢者が気軽に足を運べる「おしゃべりの場」として、区の施設を会場にスタートした「ダレデモ・カフェ」。当初は人が集まらず、チラシやポスターを作成するなどで宣伝をしました。その結果、2年後には参加者が倍増し、東根会に入会される方が増えるきっかけのひとつとなりました。毎回、手品や演奏会などを企画し、現在は月2回開催しています。



地域の方も参加してにぎわうカフェ

「ちょっとボランティア」で高齢者の安心安全な暮らしを支える

神戸市垂水区道親会

高齢者のゴミ出しは大きな困りごとで、自治会が平成27年から「住民同士の支え合い、ちょっとボランティア」活動を開始しましたが、継続が課題でした。令和元年に自治会長兼老連会長となり、会員からボランティアを募集。現在22名の支援推進員が、地域で高齢者が安心安全に暮らせるよう、ゴミ出し、買い物代行、庭木の伐採等支え合いの活動をしています。



ゴミ出し中の支援推進員。地域には坂や階段が多く、こうした支援が高齢者には欠かせない

男性向けの集いの場をめざす「男の料理教室」

長崎県壱岐市老人クラブ連合会

市老連では高齢者同士が支え合う活動として「集いの場」づくりに取り組み、63か所ですalon活動を展開しています。一方、新たに男性のための料理教室を単位クラブの会長、副会長を対象に実施し、ひとり身になっても困らない献立の知識と調理の技量などを学んでいます。今後は活動の対象を会員にまで広げ、ひとり身男性の引きこもり解消につながる集いの場としていく予定です。



真剣な表情で調理中の男性陣

女性部を中心に「高齢消費者被害防止」街頭キャンペーン

大阪府門真市老人クラブ連合会

大阪府老連は警察や弁護士会と連携し、高齢消費者被害防止に取り組んでいます。門真市老連では私鉄駅前です民向けの街頭キャンペーンを実施。この日のために女性部では、ステッカーや資料など1000セットを用意し、「声掛け」も練習。当日は門真警察署や大阪弁護士会、市消費生活センター、市民ボランティアなど60名が参加し、啓発力の高まりを実感しました。



駅前です声掛けをしながら啓発活動をする会員

◀上：「友愛訪問」は一人暮らしや高齢者世帯などを同世代の会員が訪ねて、話し相手や安否を確認したり、暮らしの情報を届けたりする活動です。お互いに顔見知りなので話はずみです

◀下：楽しみは仲間とおしゃべりと、みんなが口をそろえる「集いの場」。名称はさまざまですが、高齢者が気軽に集まれる居場所です。こちらのサロンでは編み物を教え合ったり、別コーナーでは男性会員が麻雀(写真右上)で脳トレをしたりしています



老人クラブの良いところはなんでも挑戦できること。やってみたいことを提案し、仲間が集まれば実現できます。スマホやパソコン、料理教室や外国語講座、ダンスやコーラス、手工芸品づくり、歴史探訪や施設見学、最近ではeスポーツなど、その可能性は無限大です。教わったり、教えたり、同じ興味や趣味をもつ仲間と過ごす時間は、日々の暮らしを豊かなものにしてくれます。



楽しむうちに意欲がわいてくる

生きがいづくり



スマホ講習会で 利用促進と加入促進

熊本県天草市老人クラブ連合会

令和2年1月、単位クラブでスマホ講座を開催。終了後もLINEグループで交流しています。7月には市老連主催の「スマート・



カレッジ」を開催。週1回2時間、3か月で10回、条件はスマホ所持と、クラブへの入会。受講を機に復活した単位老人クラブもあります。令和4年度は11分校が開講し、210名が受講中。会員のスマホ利用促進と災害時の安否確認利用が期待されます。

「スマート・カレッジ」は開催のたびに高い人気

みんながやりたい「多彩な活動」に 取り組む生活文化クラブ

滋賀県甲良町老人クラブ連合会

会員を一人でも多く増やそうと役員が中心となり「生活文化クラブ」を立ち上げました。活動は年4回で、そのうちの「珍しいものづくりとリッチな



ソーセージづくりに夢中

体験」には大勢が参加。目玉は「珍しいものづくり体験」で、菓子パンやカップラーメン、かまぼこづくりなどに挑戦。参加者は39名から7年で70名になり、クラブの活性化や会員を増やすことに貢献しています。

要支援の方も参加できる 「歌声サロンバス旅行」へ

三重県朝日町老人クラブ連合会

全老連のセミナー参加をきっかけに、平成27年、「朝日げんきクラブ健康づくりリーダー養成講座」を開始。その実績から平成29年、朝日町の新地域支援



「歌声サロンバス旅行」で訪れた長野県阿智村で

事業を委託され、健康づくり講座に取り組みました。近年、コロナ禍で中止となっているサロン活動のひとつに、外出機会を増やそうと「歌声サロンバス旅行」を企画。地域の高齢者の笑顔が私たちの喜びです。

一人でも気軽に参加できる 12の同好会

横浜市泉区懇親の会

一人でも仲間同士でも活動に参加しやすく考え、平成19年から各種同好会をスタートすると仲間が増え、クラブも活性化されました。現在はペタンク、カラオケ、コーラス、料理、ハイキング、囲碁将棋麻雀、太極拳、ウクレレの8種12の同好会が、週1回から月1回程度活動。カラオケはマイクが早く回ってくるよう5団体に分かれています。



ウクレレ同好会は発足して3年目。アロハとムームーの正装で演奏中

◀上：サークル活動はクラブごとに多種多様。ジャズダンスは指導者のもとで月に2回練習。踊る前のストレッチの長さは身体を大事に考えてのこと。振り付けを覚えるときは頭も使って全身フル回転状態とのことです

◀下：趣味の活動は、絵画や書道、俳句や短歌、舞踊、合唱などさまざま。手芸といってもみな個性豊かで、こちらの手芸サークルでは、使わなくなったネクタイから、会員がつけている軽くて素敵なネックレスを作っています



ボランティアや社会貢献といった言葉が使われるようになる以前から、老人クラブでは**地域をよりよくする**活動に取り組んできました。清掃や花づくりといった環境美化、昔遊びや伝統行事をとoshた子どもや若い世代との交流、防犯・防災のための通学路での見守り、災害に備える危険な場所の点検やマップづくりなど、どれも暮らしやすい地域づくりをめざしています。



自分が役に立っていると実感できる



四季折々県道沿いを花で彩り30年

徳島県阿波市西林長寿クラブ

平成元年に県道の整備により花壇が設置されました。西林長寿クラブではその花壇の整備、管理を30年以上続けています。草刈りや花や木の苗の植え付け、周辺の清掃作業などを行い、地域住民からも感謝の言葉が届きます。会員は長年にわたり定期的に活動することで、互いに誘い合い、つねに20名ほどが参加。それにより引きこもりや孤立防止にもつながっています。



一年を通して花壇の管理をしている。この日は花の植え付け作業中

世代間交流(小学生との交流)が20年以上も続く

青森県藤崎町老人クラブ連合会

町老連では20年以上前から、地域の3つの小学校1年生に昔の遊びを教え、お返しに2年生が考えた遊びを体験するという交流を続けています。令和2年に実施した常盤小学校での交流には、67名の児童に22名の会員が参加し、ずぐり(津軽独特のすり鉢型木製こま)回し、けん玉、おはじき、お手玉などを紹介。最後に感想を聞き、一緒に給食をいただきました。



ずぐり回しは縄を巻きつけるのが難しいが、子どもたちは上達するのも早い

雨の日も風の日もコロナの日々も通学路の安全を守る

京都府八幡市男山第3住宅はるかぜ会

男山第3住宅はるかぜ会は16年前から、通学路の安全確保を続けています。とくに小学校前の横断歩道は一度に30名の児童が渡ることもあり、つねに4名の会員で見守っています。令和3年も、子どもたちはコロナに負けず、元気に登校し、見守りも変わらず続きました。最近では、かつての児童が母親になり、その子どもたちが登校してくるようになりました。



みんなマスクをつけて、コロナ禍での見守り

災害に備え、井戸の台帳とマップづくり

静岡県さわやかクラブふじえだ連合会ふじみ台寿会

将来発生しうる南海トラフ地震等に備え、ふじみ台寿会ではライフラインが寸断しても利用可能な井戸のマップを作ることになりました。まずは町内会の協力を得て井戸を調べ、8つが利用可能と判明。所有者の了解を得、市役所からは停電時でも水を汲み上げられるよう発電機設置の助成を得て、台帳とマップを作成。自治会等へ配布し、説明会も開催しました。



住民やふれあいサロンの参加者や会員への説明会を4回開催し、300名以上の参加を得た

◀上：毎年、9月20日の全国一斉「社会奉仕の日」には、老人クラブが各地で美化・清掃活動や資源ゴミの回収等に取り組んでいます。瀬戸内海に面した香川県東かがわ市のこのクラブでは海岸の清掃を行い、ペットボトルやプラスチックの破片、空き缶、流木などの流れ着いたゴミを集めています

◀下：イベントで、地域の子どもたちに昔遊び「割りばし鉄砲」の作り方や遊び方を教える会員たち。子も親もそして会員もみなが夢中です。昔遊びや祭りなどの伝承には多くの会員が活躍し、若い世代との交流につながっています

もっと知りたい！ 老人クラブの魅力と チカラ

組織と概要



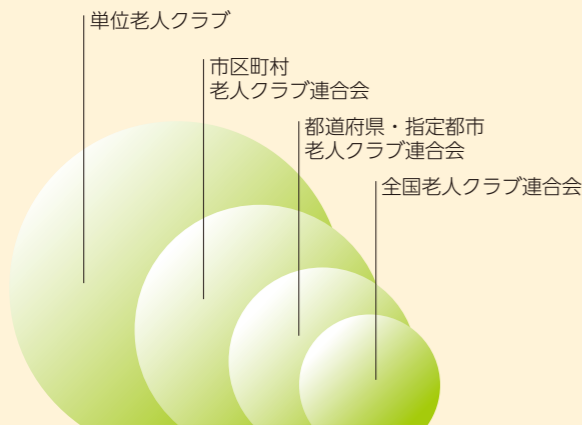
わかる、解る！ 老人クラブ Q&A

Q どんな組織ですか？

A 老人クラブは高齢者の自主組織です。

日常的に声をかけ合い、歩いて集まることのできる小地域の範囲で組織され、会員本位の自主的かつ民主的な運営をしています。

小地域ごとの老人クラブ(単位クラブ)を核に、市区町村、都道府県・指定都市、全国の段階に老人クラブ連合会(老連)を組織しています。令和3年3月末時点で、単位クラブは全国で約9万、会員数は約470万人です。



会員のみなさんの

声

公園の清掃や美化。コロナ禍でも活動を継続したこと。

子どもたちの登下校の見守り。地域貢献になっていると思う。

困っている人の手助けをする活動。助けてあげる人と助けてもらう人とが仲がよい。

いちばん自慢の活動はなんですか？

みんなと顔をあわせるお茶会はいい活動。

脳トレーニング。みんなが楽しみにしている。

クラブではなんでも話し合っている。そこがよいところ。



Q 何歳から入会できますか？

A おおむね60歳以上ならだれでも入会できます。

各クラブはそれぞれの地域で生活を豊かにする活動や、地域を豊かにする社会活動をしています。常時活動に参加できない高齢者であっても、会員として迎え、支え合い、喜びを共有できるよう努めています。また、年齢に関係なく参加できるように、賛助会員や協力会員の仕組みを取り入れているクラブもあります。



Q 地域での老人クラブの探し方は？

A 市区町村老連または市区町村役場に問い合わせをしてみましょう。

老人クラブは各地域で多彩な活動をしていますが、名称は「いきいきクラブ」や「みどりクラブ」「喜楽会」などさまざまです。所在がわからないときは市区町村役場などにお問い合わせください。



Q 費用はどれくらいかかりますか？

A クラブの会費は1人あたり年間1,500円程度です。

活動の財源は会費によってまかなうことを基本としています。また、「老人福祉法」(第13条)にも位置づけられ、高齢者の生きがいや健康づくりの推進に向け、国や地方公共団体からの支援もあります。



全国老人クラブ連合会の取り組み

● 全国老人クラブ連合会は、老人クラブ活動の発展と高齢者保健福祉の向上を図るため、各種の事業を行っています。

- 老人クラブリーダー育成のための研修会の開催
- 学習資料・活動教材の作成
- 全国イベントの開催
- 広報誌の発行、ホームページの開設
- 老人クラブ・高齢者に関する調査研究
- 保健・福祉・医療・介護などの制度施策への提言
- 会員章・老人クラブ保険の普及
- 国内外の災害被災地への支援
- 海外日系老人クラブとの交流
- 関係団体・機関との連携



老人クラブリーダー研修会

● 全国老人クラブ連合会では、さまざまな全国運動を提唱しています。

- 高齢者の孤立を防ぐ仲間づくり活動
- 全国三大運動(健康づくり、高齢者相互の支え合い、ボランティア)
- 「老人の日・老人週間」の取り組み
- 老人クラブ「高齢消費者被害防止」キャンペーン

人に勤められて。
★この答がいちばん多い!

会社人間だったので、地域のことを知りたくて。

同世代の仲間ができた。
★この答が圧倒的に多い!

経験豊富な年長者と知り合えた。

入会のきっかけは？

転居してきて地域に知り合いがいなかったから。

グラウンド・ゴルフに参加したかった。

入会してよかったことは？

日常生活のなかで、地域の人が声をかけてくれることが増えた。

老人クラブのあゆみ



老人クラブの起源は、仏教伝来により広がった信仰的、相互扶助的な結社「講」や、平安時代に始まった高齢者の集い「尚齒会(しょうしのえ、しょうしかい)」にまでさかのぼることができます。

その後、明治、大正期には、福岡県福岡市「博多高砂会」(明治26年)、京都府亀岡市「楽寿老人会」(明治40年)、熊本県小国町「上田地区老人会」(大正14年)など、現在の老人クラブの原型ともいえる高齢者組織が誕生しました。戦後になると、高齢者の交流と活動の場づくりの必要性を感じた先覚者たちの呼びかけにより、各地で老人クラブが結成され、「としよりの日」(現在の「老人の日」)運動や老人福祉法の制定を経て全国に広がっていきました。

●老人クラブと「老人の日」

「老人の日」の発端は昭和22年9月15日に兵庫県野間谷村(現・多可町)で行われた敬老行事。それが広まり、昭和26年には現在の全国社会福祉協議会が提唱して全国運動を開始。9月15日を「としよりの日」、同21日までを運動週間とした。こうしたなかで、老人クラブづくりも提唱された。昭和38年、老人福祉法に「老人の日」が定められ、昭和41年には「敬老の日」と改称され国民の祝日となった。さらに平成13年の国民祝日法改正に

よって、平成15年からは9月の第3日曜日が「敬老の日」と定められた。老人クラブでは老人福祉の記念日である9月15日を残そうと全国的な運動をし、平成14年には、前年の老人福祉法の改正により、9月15日が「老人の日」、同21日までが「老人週間」となった。老人クラブはこれを記念して、9月15日を中心に全国三大運動を積極的に展開し、高齢者の行動姿勢を広く示している。



「老人の日・老人週間」のPR活動をする広島県廿日市(はつかいち)市老人クラブ連合会大野支部万青年(おもと)会連合会

老人クラブのあゆみ	年	老人福祉関係・社会の動き
老人クラブ草創期 1940～1960年代		
千葉県八日市場町(現・匝瑳市)に「米倉老人クラブ」結成される。このころより、各地で老人クラブづくりが始まる	1946 昭和21	「日本国憲法」公布(翌年施行)
	1947 22	兵庫県野間谷村(現・多可町)、「としよりの日」を定め、敬老行事を実施
	1951 26	中央社会福祉協議会(現・全国社会福祉協議会/全社協)、第1回「としよりの日」運動を開始(1964年に「老人の日」に改称)
全国各地の社会福祉協議会において、老人クラブづくりが進められる	1952 27	
全社協、初の「老人クラブ数調査」を実施(全国112クラブ)	1954 29	「(新)厚生年金保険法」公布・施行
大阪市と徳島県に老人クラブ連合会(老連)設立(以降、各地で連合会の設立が相次ぐ)	1957 32	
	1958 33	「(新)国民健康保険法」公布(翌年施行)。国民皆保険体制確立
	1959 34	「国民年金法」公布(同年から順次施行)。国民皆年金体制確立
「全国老人クラブ連合会(全老連)結成大会」開催	1962 37	
厚生省、老人クラブに対する助成開始	1963 38	「老人福祉法」公布・施行
	1966 41	「老人の日」が「敬老の日」として国民の祝日となる
全老連、財団法人認可	1967 42	
機関誌「全老連」創刊(1986年より月刊化)	1968 43	
クラブ拡大と活動発展期 1970～1980年代		
「全老連設立10周年記念全国老人クラブ大会」開催(この大会を第1回とし、以降、毎年開催)	1972 47	沖縄施政権返還、沖縄県発足
「老人クラブ運営指針」策定	1973 48	「老人医療費無料化制度」開始 「年金制度」改正(物価スライド制の導入) 石油危機(オイルショック) この年、「福祉元年」といわれる
「市町村老人クラブ連合会運営指針」策定	1980 55	
全国運動「病にかからぬ運動」開始(1984年に「健康をすすめる運動」に改称)	1982 57	国際連合、第1回「高齢者問題世界会議」開催(ウィーン) 「老人保健法」公布(翌年施行)。老人医療費一部有料化
老人クラブのシンボルマーク・会員章制定 「全老連創立20周年記念全国老人クラブ大会」開催(天皇陛下ご臨席)	1984 59	日本人の平均寿命、男女ともに世界一となる(男性74.2歳、女性79.8歳)
	1985 60	「年金制度」改正(基礎年金制度の創設、女性年金権の確立)
「健康をすすめる運動」に「友愛活動」「社会奉仕の日」を加え、全国三大運動開始	1986 61	「長寿社会対策大綱」閣議決定
「老人クラブ保険」創設	1987 62	
	1988 63	第1回「全国健康福祉祭(ねんりんピック)」開催
	1989 平成元年	天皇陛下崩御 消費税導入(税率3%) 厚生省・大蔵省・自治省、「高齢者保健福祉推進十か年戦略(ゴールドプラン)」策定(1990年から実施)



昭和28年設立の「新宿生活館老人クラブ」は東京で最初の老人クラブとされる。だれでも参加でき、毎日30名ほどが都の郡部や他県からも訪れ、囲碁や将棋、読書、雑談を楽しんだり、内職をしたりと、現在のサロンのような集いの場としてにぎわったという。



昭和57年、天皇陛下をお迎えして「全老連創立20周年記念全国老人クラブ大会」を開催。同時に発表されたシンボルマークは長寿の象徴である鶴(高齢者)が日章(日本)を担っている様子をデザインしたものである。

老人クラブのあゆみ	年	老人福祉関係・社会の動き
21世紀に向けた展開期 1990年代		
提言「21世紀に向けた『新たな老人クラブづくり』」発表	1990 2	バブル崩壊
厚生省、市町村老連に対する活動促進助成開始	1991 3	
全国運動「ねたきりゼロ運動」展開 第4回全国健康福祉祭において、老人クラブのパビリオン「地域文化伝承館」開設(以降、毎年開設)	1992 4	世界高齢者団体連盟、第1回「世界会議」開催(インド)
全国運動「在宅福祉を支える友愛活動」展開 「全老連創立30周年記念全国老人クラブ大会」開催(天皇皇后両陛下ご臨席)	1993 5	
全老連、「女性委員会」発足	1994 6	「新ゴールドプラン」策定(1995年から実施)
「老人クラブ21世紀プラン」策定	1995 7	阪神・淡路大震災発生 「高齢社会対策基本法」公布・施行
	1996 8	「高齢社会対策大綱」閣議決定 世界金融危機(リーマンショック)
	1997 9	消費税引き上げ(税率5%) 「介護保険法」公布(2000年施行)
	1999 11	「ゴールドプラン21」策定(2000年から実施) この年、「国際高齢者年」
新たな課題への挑戦期 2000年代		
「単位クラブ21」策定	2000 12	厚生省、「健康日本21」策定 「介護保険制度」「成年後見制度」開始
	2001 13	中央省庁再編。厚生労働省発足
全国運動「老人の日・老人週間」の取り組み開始 「全老連創立40周年記念全国老人クラブ大会」開催(天皇皇后両陛下ご臨席)	2002 14	「健康増進法」公布(翌年施行) 「老人の日・老人週間」改定(9月15日と同日からの1週間)
「老人クラブ21世紀プラン」改定	2003 15	「敬老の日」が9月15日から9月の第3日曜日となる
	2004 16	「年金制度」改正(マクロ経済スライドの導入)
	2008 20	「後期高齢者医療制度」開始
「老人クラブ活性化3か年計画」策定	2010 22	
	2011 23	東日本大震災発生
「全老連創立50周年記念全国老人クラブ大会」開催(天皇皇后両陛下ご臨席)	2012 24	「社会保障・税一体改革大綱」閣議決定
全老連、公益財団法人認可	2013 25	
全国運動「老人クラブ『100万人会員増強運動』(5か年計画)展開 全国運動「老人クラブ『高齢消費者被害防止キャンペーン』」開始	2014 26	消費税引き上げ(税率8%)
「新地域支援事業に向けての行動提案」策定	2015 27	「介護保険制度」改正(要支援者に対する予防給付を市町村の「地域支援事業」に移行)
	2019 令和元年	天皇陛下即位 消費税引き上げ(税率10%、軽減税率対象物は8%)
「コロナ禍における『新しい生活様式』に基づく老人クラブ活動」提唱	2020 2	新型コロナウイルスパンデミック
全老連創立60周年	2022 4	



平成23年3月の東日本大震災に際し、老人クラブでは8億円余の救援拠金と11万個に及ぶ「元気袋」を被災した11県市老連へ贈った。元気袋は日常生活用品とメッセージを添えた会員手作りの小袋で、地域の老人クラブを通じて被災者に届けられた。



令和3年1月、全老連は「クラブ活動は新しい生活様式で」と題した冊子を発行。コロナ禍で高齢者の体力低下や社会的孤立が心配されるなか、活動再開を模索する多くのクラブに対し、感染防止に配慮した活動のポイントをまとめてエールを送った。